

2009 言語資源シンポジウム

「言語・音声データの学術利用に向けて」

これからのグローバル社会では言語の障壁を取り除くことが求められます。それに対処するため自然言語・音声処理・情報検索・情報アクセスの研究が進められています。これらの研究には、言語・音声データの利用が必要不可欠です。日本では言語・音声データに関する組織・プロジェクトが幾つか並立して事業を進めています。

本シンポジウムでは、その関係者が一同に会し、言語・音声データに関する現状を紹介するとともに、パネル討論で今後どのように進むべきかを探ります。

日時：2009年10月15日（木）10:30-16:30

場所：学術総合センター2階 一橋記念講堂（東京都千代田区一ツ橋2-1-2）

主催：国立情報学研究所(NII)

共催：特定非営利活動法人言語資源協会(GSK), 高度言語情報融合フォーラム(ALAGIN)

後援：日本音響学会, 人工知能学会, 言語処理学会, 電子情報通信学会 情報システムソサイエティ
日本音声学会, 情報処理学会 音声言語情報処理研究会・自然言語処理研究会

【プログラム】

開会挨拶 東倉洋一（国立情報学研究所 副所長）

基調講演「大量言語データ処理時代の幕開け」長尾真（国立国会図書館長）

基調講演「データ中心科学の意義と重要性」坂内正夫（国立情報学研究所長）

招待講演「言語資源の利用と著作権」岡村久道（弁護士, 国立情報学研究所 客員教授）

招待講演「高度言語情報融合フォーラム: Resource-Rich なテキスト処理への展望」

辻井潤一（東京大学 教授, マンチェスター大学 教授,
英国国立テキストマイニングセンター 研究担当ディレクタ）

パネル討論「多様なニーズに応える言語資源」 司会: 板橋秀一（国立情報学研究所 特任教授）

「言語資源とeサイエンス ―言語資源協会(GSK)の現状と課題―

橋田浩一（産業総合技術研究所 サービス工学センター次長）

「NTCIRの活動と言語資源の扱い」神門典子（国立情報学研究所 教授）

「NICTにおける音声・言語資源」鳥澤健太郎（情報通信研究機構 言語基盤グループリーダー）

「国立国語研究所における言語資源」前川喜久雄（国立国語研究所 言語資源グループ長）

「企業から見た言語資源」松井くにお（ニフティ株式会社 技術理事）

閉会挨拶 板橋秀一（国立情報学研究所 特任教授）

※ 講演タイトルは仮題です。また、プログラムは都合により変更になることがあります。

【お申し込み】

お名前, ご所属, メールアドレスを明記の上, メールにて src-symp@nii.ac.jp までお申し込み下さい。
なお事前のお申し込みが無くともどなたでもご参加いただけますが, お席に限りのある場合がございます。

お問い合わせ

国立情報学研究所 音声資源コンソーシアム

src-symp@nii.ac.jp

<http://research.nii.ac.jp/src/symp/>